

姫路市すこやかセンターのあり方検討について

～第3回 姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会～

令和8年2月13日開催

1

1
委員意見の
とりまとめ
について

2
市の施策の
方向性
(検討案)

委員意見のとりまとめについて

懇話会の進め方について

・姫路市すこやかセンターあり方検討懇話会では、以下の点についてご意見を伺いたいと考えています。

すこやかセンターあり方検討懇話会(全3回)

- すこやかセンターの運営状況に関する課題
- 当初のコンセプトである「多くの市民に利用してもらうことによって、多世代間のふれあいの場として活用」
として機能しているか
- すこやかセンターが市の目指すべき「創造と交流を生む施設」の機能を果たしているか
- すこやかセンターの事業効果がライフ・サイクル・コストに対して、適正か
- 少子高齢化が急激に進む中、本市の重視する「介護予防費の抑制効果」が十分に発揮されているか
- 仮に代替策により事業を実施した場合、すこやかセンターを維持することとどちらが効果的か

委員の皆さまから頂いた意見を踏まえ、市の今後の施設の方向性を決定する予定です。

PLAN1
施設を継続

PLAN2
施設の廃止

PLAN3
代替策による
事業継続

懇話会の進め方について

ライフサイクルコストや利用状況など市が行った現状分析の結果を説明し、次に各階の機能が異なることから、1階部分から順にご議論いただく予定としております。



現状分析

第1回

- ・施設改修時のライフサイクルコストの試算
- ・各階の利用状況等の分析

第2回

3階 子育て支援施設

2階 老人福祉センター

第1回

1階 健康づくり施設

第1回懇話会での委員意見に対する補足①

- 開設当初と比較し、1階の障害者の方の利用人数が増加している。どのような目的でどのような利用をされているのか。

- 開設初年度の利用者数は少なかったものの、H15(2003)には延利用者数が7,057人に増加。以降、H25(2008年)ごろをピークに利用者数は減少している。
- 1日あたりの平均利用人数は、H15(2003年)以降、21人から36人の間で推移。

	H14 (2002)	H15 (2003)	H20 (2008)	H25 (2013)	H30 (2018)	R5 (2023)	R6 (2024)
延利用者数	3,383人	7,057人	9,362人	11,053人	9,665人	6,375人	6,680人
平均人数(日)	12人	23人	31人	36人	28人	21人	22人
開設日数	282日	307日	307日	306日	306日	309日	306日

- 全体の利用割合がプール:トレーニングルームで1.7:1に対して、障害者の利用割合は2.6:1とプールの利用を目的とした方が多い。

	障害者	全体
プール	4,830人	92,532人
トレーニングルーム	1,850人	54,262人

- 1階の男女別の利用状況は分かるのか。

- 定期券購入者では、ほぼ同数である。

	男性	女性
定期券購入者数	376人	358人

第1回懇話会での委員意見に対する補足②

- 1階の利用人数が減少傾向にあるとのことだが、新規の利用者は増えていないのか。
- これまでの利用者が、どこに移られたのか何か傾向は分かるのか。
- 定期券購入者の延利用者数が近い平成20年と比較し、利用状況を調査。1日券・回数券の延べ利用者数が減少しているため、いわゆる新規の「お試し」で来場している利用者は減少しているものとみられる。
- ハードな利用をされる利用者が増えており、利用者の固定化がより進んでいる。

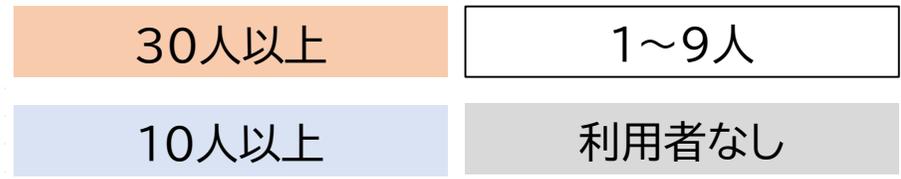
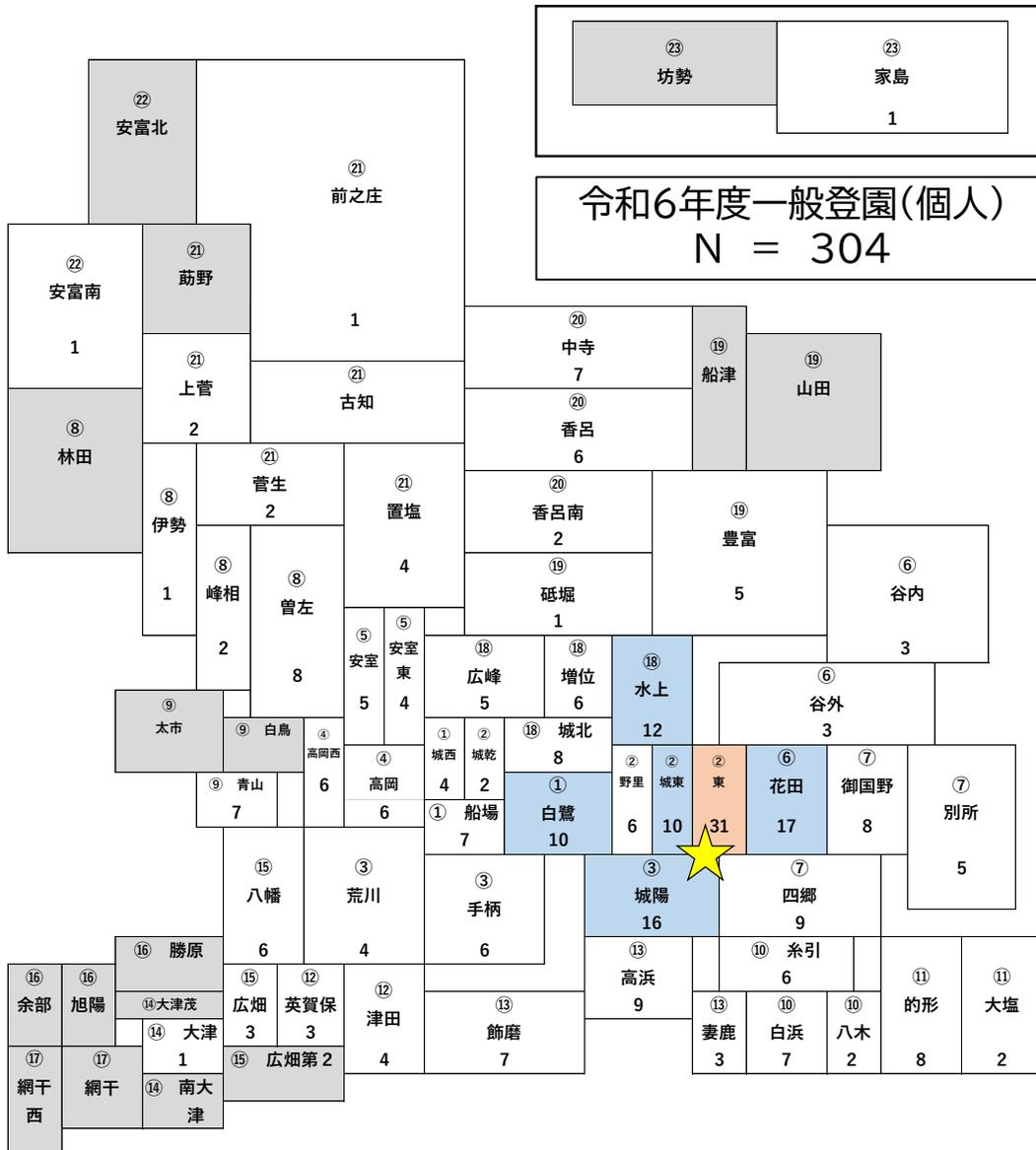
	H20(2008)	R6(2024)
延利用者数	156,897人	146,794人
（うち定期券延利用者数）	110,681人	109,352人
（うち1日券・回数券延利用者数）	46,216人	37,442人
定期券購入者数	970人	734人
定期券購入者年間平均利用回数	114回	149回

- 定期券購入者の状況を調査したところ、使用料の減免の対象とならない、16歳から59歳の減少が著しい。
- 利用者が減少した要因として、すこやかセンターより利用料金が安価な「コンビニジム」が台頭しており、そちらに利用者が移行したことが考えられる。

	H20(2008)	R6(2024)	増減率
定期券購入者数	970人	734人	▲24.4%
（うち16歳から59歳）	250人	85人	▲66.0%
（うち60歳以上）	652人	596人	▲8.6%
（うち障害者）	68人	53人	▲22.1%

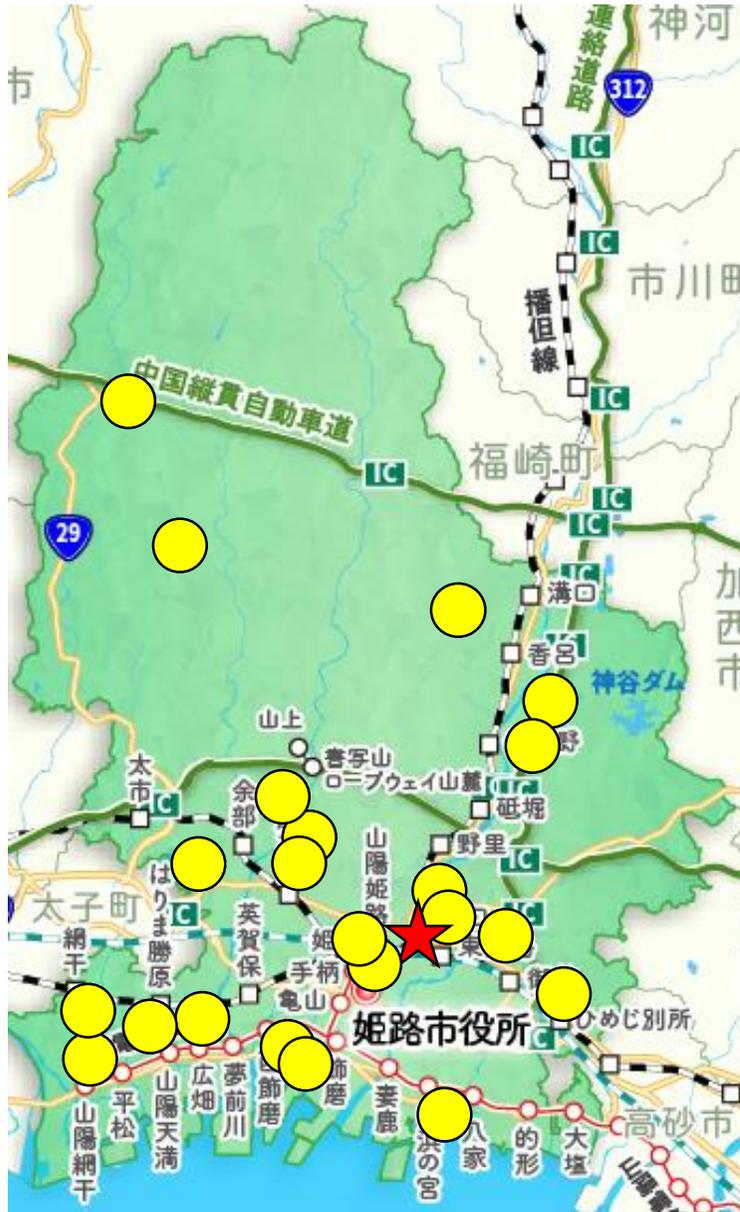
第2回懇話会での委員意見に対する補足①

● 生きがいづくり活動の場に参加する方、参加されない方、それぞれの理由は何かあるのか。



- すこやかセンターの2階老人福祉センターの一般登園(個人)の利用登録をされている方の利用状況を調査すると、近隣の利用度が高い傾向が見て取れた。
- すこやかセンターにアクセスしにくい市内北西部、南西部、北東部では、利用者がいない校区も見られた。
- 通いの場の参加する・しないについては、距離やアクセスのしやすさと一定の関連性があると推測される。

第2回懇話会での委員意見に対する補足②



- すこやかセンター3階 子育て支援施設の利用状況が令和3年度以降、横ばいではあるが、現在、利用されている方々の受け皿があるのかという点が気になる。
- 地域子育て支援拠点事業として、市内24か所の施設に乳幼児とその保護者が相互に交流できる場所を設けている、
- すこやかセンターのひろば事業の利用者については、仮に、施設を廃止した場合においても、他の施設等の利用が可能と考えられる。
- すこやかセンター3階の子育て支援施設の持つ、地域子育て支援の中核的機能を果たす、事務局としての場所はあるが、すこやかセンターでなければ実施できないものではない。



第1回・第2回懇話会での委員意見について

	施設の継続	施設の再考
1階 健康づくり施設	<ul style="list-style-type: none"> ・交流が希薄となる男性の高齢者が、目的を持って通えるのであれば、貴重な場である ・障害者の方が利用する施設として、一定の配慮が必要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の利用者が頻繁に利用している状況が見てとれた。限定された方に対し、多くの公費を投じている実態から、有用性や効果性という観点で厳しい部分がある ・開設以降、歳出超過が続いており、かなり厳しい運営状況である。
2階 老人福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・(すこやかセンターに場所を限る訳ではないが)老人クラブ活動をとりまとめる団体として、市老人クラブ連合会の事務局は必要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやかセンターという拠点を残す意義があると思うが、全国的な傾向からも、通いの場を地域に落とし込んでいくことが、現実的なあるべき姿である
3階 子育て支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ・横ばいではあるが、一定数の利用があるため、受け皿が必要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代間交流を促進する観点から、高齢者の通いの場とリンクさせてはどうか
全体		<ul style="list-style-type: none"> ・すこやかセンターの設置コンセプトである多世代間の交流や、市が目指す「創造と交流を生む施設」とあるが、市から提示されているデータからは、交流が十分にできているという風には読み取れない

第1回・第2回懇話会での委員意見について

代替策による事業継続

1階 健康づくり施設

- ・大規模改修を実施し、施設を継続する場合、改修費用等と見合った利用料金とすると利用者の減少が見込まれるため、利用料金を引き上げるのであれば、機能を増やさなければ、利用者の増加を見込めないのではないか
- ・すこやかセンターの代替えとして、民間施設のみならず、新たに建設されるひめじスーパーアリーナも、受け皿の一つとなるのではないか

2階 老人福祉センター

- ・老人クラブの高い組織率を活かし、さらに高めるような取り組みが出来ればよい
- ・地域の担い手不足も大きな地域課題ではあるが、老人クラブの会員数を増やす取り組みを進めるうえで、新たな会員の方が、新たな担い手となれば理想的である。
- ・日常生活圏域内での通いの場を充実させる観点から、北部に市民センターが少なく、偏在性があることが気にかかる
- ・通いの場は画一的なものとするのではなく、それぞれの地域に合った特色のある通いの場を作っていくことができればよい
- ・通いの場のメニューについては、地域での活動を通じて様々な経験や知見をもつ老人クラブからの提案や、地域の高齢者のニーズをよく知る地域包括支援センターの職員から意見を聴取してはどうか
- ・通いの場の検討については、デジタルの活用や、交流が希薄な男性高齢者、通いの場に通えない方、今後支援が必要となる身寄りのない高齢者への配慮が必要である

3階 子育て支援施設

- ・地域の通いの場の中で、子育て支援も、高齢者の生きがいづくりも含めた、多世代交流につながる仕組づくりができればよいのではないかと感じた
- ・ファミリーサポートセンター事業や子育て学習センター事業に、高齢者が参加していただくことで、課題解消や交流につながるのではないか

(参考)公共施設等総合管理計画パブリックコメント

パブリックコメント意見(すこやかセンター該当部分のみ)

パブリックコメント432件中、すこやかセンターに関する意見408件

すこやかセンター存続の要望

【代表的な意見】

利用者は、高齢者(70代～80代後半)が多く、プール歩行、水泳及びジムで毎日運動をする等、いきいきと活動している。また、利用者の中には一人暮らしの方も多く、引きこもりの状態の方でも、施設を来訪の上、軽く運動をするほか、利用者同士で話をして友達になることもあり、楽しんでいる人も多くみられる。以上のことから、引き続き施設の存続を要望する。

2

1
委員意見の
とりまとめ
について

2
市の施策の
方向性
(検討案)

市の施策の方向性(検討案)

本市の公共施設を取り巻く状況

・将来推計人口



単位: 万人

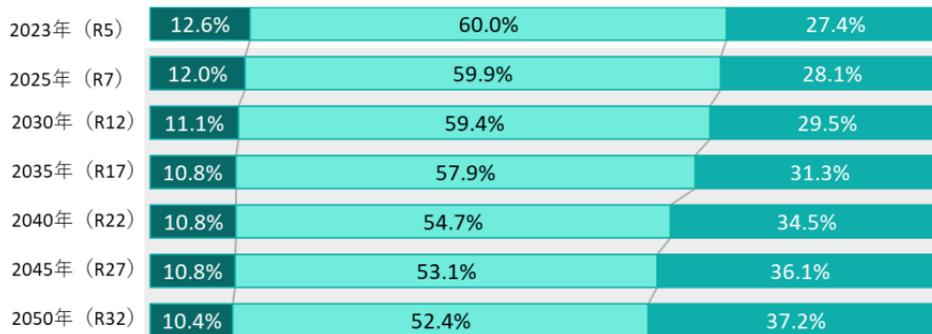
■ 15歳未満 ■ 15~64歳
■ 65歳以上 ■ 年齢不詳

項目	増減	割合
総数	- 9万人	(- 17%)
65歳以上	+ 1.8万人	(+ 12.5%)
15~64歳	- 8.7万人	(- 27.5%)
15歳未満	- 2.1万人	(- 31.8%)

注 数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

出典 姫路市版「地域の未来予測」

・将来推計人口(人口構成)



単位: %

■ 15歳未満 ■ 15~64歳
■ 65歳以上

項目	変化
65歳以上	+ 9.8 pt
15~64歳	- 7.6 pt
15歳未満	- 2.2 pt

出典 姫路市版「地域の未来予測」

- 総人口、特に、生産年齢人口の減少により、労働力・市税収入の減少が見込まれる。また、少子高齢化により、社会保障費の増大が見込まれ、2050年には約1.4人の現役世代で高齢者1人を支える厳しい状況が想定される
- 新たな公共施設等総合管理計画では、持続可能な財政運営のため、今後40年間で床面積総量を30%削減していく
- 今後、施設総量を縮減しつつ、「創造と交流を生む施設」を実現するなど機能やサービスを充実させていく

すこやかセンターの現状

すこやかセンターのコンセプト

- 1階は、市民一人ひとりの誰もが年齢や体力に応じて手軽に健康づくりに取り組めるとともに、介護予防の観点を強く意識した健康づくり施設。
 - 2階は、高齢者の生きがい活動の支援など老人福祉センター養寿園の代替施設。
 - 3階は、子育て支援のための施設。
- ➔ これらの施設を多くの市民に利用してもらうことによって、多世代間のふれあいの場として活用。

現状

健康づくり施設

- 建設時と比較し、民間を中心に類似施設が充実
- 限られた利用者に多くの公費が投じられている
- 歳出超過額が多額であり、収支均衡の見込みがたたない

老人福祉センター

- 一般登園の実利用者数が、60歳以上人口に対しわずか0.46%
- 老人クラブ会員数、同会員を対象とした校区登園利用者ともに、減少しており、老人クラブの活性化に繋がっていない
- 利用者が限定的であり、通いの場に求められる機能は発揮できていない

子育て支援施設

- 地域子育て支援の中核的機能である、利用者支援事業、ファミリーサポートセンター事業や子育て学習支援センター事業については継続する必要があるものの、すこやかセンターでなければ実施できないものではない
- ひろば利用者は他施設の利用を含め、受け皿となり得る

「多世代間の交流」は十分に機能していない

目指すべき姿(検討案)

すこやかセンターは、当初の構想を高齢者保健福祉の計画の中で位置付けており、2000年に介護保険制度が始まる中で、健康づくりや高齢者の生きがいづくり、また、多世代間の交流の中で高齢者の社会参加を促すなどにより、介護予防に資することを目的として設置した。しかしながら、社会情勢の変化等を踏まえ、当時と現在の介護予防に関する取組は変化している。

2040年の社会のイメージ

多様化する
家族と住まい方

介護は必要なくても、
生活のちょっとした困りごと
を抱える
高齢者の増加

家族介護を
期待しない
できない時代

2040年
団塊の世代は
90歳以上に

2035年
85歳以上の高齢
者が1,000万人

現状の市の取組

- すこやかセンターをはじめとする施設の整備
- 地域包括ケアシステムの構築

2040年に向けたあるべき姿

- 地域包括ケアシステムの「構築」から「更なる深化」
- 特に、「通いの場」については、高齢者にとって身近な場で、認知症予防、多世代交流や就労的活動など、地域のニーズに応じた多様な機能を有する場として発展・拡充させていくことが重要

通いの場の発展・拡充については、既存の各地域の公共施設や民間施設を活用し、機能やサービスを充実させることにより、より効果的に実施することができる。すこやかセンターが、これからの介護予防に関する取組の中で、25年間で必要な50億円以上のライフサイクルコストに対する効果を発揮することは難しいといえる。

市の施策の方向性(検討案)について

限られた利用者によくの公費が投じられており、介護予防への効果も限定的であることから、25年間で必要な50億円以上のライフサイクルコストに対し、施設を維持し続ける必然性に乏しいと判断します。今後、拠点から地域へ、高齢者が生きがいを持って活動できる交流の場を移していく施策への転換が望ましいと考えます。

市民の健康づくり

民間施設の利用のほか、ひめじスーパーアリーナをはじめとする公共施設を活用します

- ・ すこやかセンターの所在する、市内中心部の民間健康づくり施設が増加していること、新たに建設される、ひめじスーパーアリーナをはじめとする市が運営する健康づくり施設があることから、すこやかセンター利用者の方へ、他の施設の利用を促していきます。
- ・ 障害者の利用者については、市の公共施設についてユニバーサルデザインを意識した整備に努めていること、また、使用料が一部減免されること等を十分に周知していきます。また、男性の高齢者の居場所については、通いの場の中で検討していきます。

高齢者施策(通いの場の充実)

地域の通いの場の充実を図るとともに、老人クラブのさらなる活性化に努めます

- ・ 高齢者の介護予防(フレイル予防)や認知症予防を強化することを目的として、高齢者にとって多様な魅力的なメニューを充実させ、既存の公共施設を活用するなど、それぞれの地域で健康づくりや活動の場を展開し、高齢者自身が身近に通える「元気になる拠点」づくりに取り組んでいきます。
- ・ 老人クラブの更なる活性化を目的として、老人クラブの設立要件・助成金の見直しや活動に対するインセンティブを付与するなど、活動への参加を促進していきます。さらに、老人クラブとより一層の連携を図り、今後のより効果的な高齢者政策の実施に取り組んでいきます。

子育て支援事業

移転・統合を視野に、事業の実施場所の見直しを検討していきます

- ・ すこやかひろば利用者については、近隣の駅前すくすくひろば、のびのび広場みらいえや市内24か所に設置している地域子育て支援拠点施設の利用を促していきます。
- ・ 子育て支援の事務局機能は必要であることから、ひろば事業以外については一時的に別の場所で継続して実施しながら、他の公共施設への移転・統合を検討していきます。